

## 賀詞交歓会（22, 1, 18）会長挨拶

あけましておめでとうございます。会員の皆様には、日頃から協会活動へのご理解、ご協力をいただきありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

コロナ禍の中ではございますが、1年ぶりの賀詞交歓会をこのように開催でき、皆様にお目にかかれて喜ばしい限りでございます。

また平素から、何かとご指導、ご支援をいただいております国土交通省様、経済産業省様、大阪府様に御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は厳しい社会環境の中、2年に及ぶコロナ禍が生活様式や働き方の見直しを進め、環境面では脱炭素社会を目指す動き、国内では東京オリンピック・パラリンピックの開催、岸田政権の誕生など、社会全体の変化がさらに加速した年でありました。

私ども建設業界では、国土交通省様が「建設工事において適正な工期を確保するための基準」を作成されました。同時に日本電設工業協会では「工期の基準の手引き」の冊子を発刊しました。

2024年の労働基準法改正に向けて、また若者に魅力ある業界を目指して、労働環境改善が進むことを期待します。私たち業界も、今を大切な時期と捉えて行動していかなければならないと考えます。

現在、大阪電業協会は業界の認知度向上を目指し、出前授業や現場見学会、業界説明会など入職促進事業を積極的に進めております。

お陰様で生徒数が年々減少する中で、業界入職者数は上がっております。

また、会員の多くを占める中小企業様への支援も中小部会を中心に5年目を迎えました。ここでは事業承継問題、若手の退職者防止、実務レベルの向上など、中小企業特有の様々な課題をテーマに取り上げ、活動を展開しており成果も着実に上がっています。

更に、今年は主要行事である電気工事士技能競技大会並びに社会貢献活動を続けてきた青年部会が50年目を迎えます。これもひとえに諸先輩、そしてここにおられる皆様の努力の結晶と感謝する次第です。有難うございます。

関西にとっては2025年大阪・関西万博の開催を控え、様々なプロジェクトが始動する年です。私達大阪電業協会は、今年も電力インフラを支える業界として地域社会に貢献するとともに、会員企業の皆様にお役に立つ事業活動を進めていく次第でございます。会員の皆様には、引き続きご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、日本電設工業協会関西支部並びに大阪電業協会のみずみずの発展と各社のご隆盛、ご出席の皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心より祈念いたすとともに、一日も早いコロナ禍の収束を願ひまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます